

反動：当初の歓迎から全面禁止へ

特に九州においては、キリシタンが急増したことにより、統治者の間でキリスト教が植民地化の皮切りなのではないかという疑念が生まれました。そして 16 世紀末には、キリスト教はもはや歓迎されなくなりました。信仰放棄を拒絶するキリシタンは、地域の大名であろうと迫害や処刑を受けたのです。そして 1614 年、江戸幕府はキリスト教を事実上禁止しました。幕府は信仰を棄てるよう迫り、キリスト教は闇の中へ葬られました。

雲仙では、1627 年から 1630 年にかけて 33 人のキリシタンが信仰を放棄するよう、地獄の熱湯による拷問を受けました。拷問が行われたとされる場所を俯瞰できる山には、キリシタンたちの犠牲を追悼する十字架と殉職碑が建てられています。長崎と島原半島のキリシタン弾圧は、著名な作家である遠藤周作（1923～1996 年）の小説『沈黙』に着想を与え、のちにマーティン・スコセッシにより映画化されました。

民衆蜂起による最後の抵抗

キリスト教が大衆宗教としてみせた最後の抵抗のひとつに、キリシタンの農民、商人、漁師、浪人の蜂起で 1637 年 12 月 17 日に始まった島原の乱があります。この地域の元大名がキリシタンであったことから、島原半島は依然としてキリスト教の拠点となっていました。重い年貢負担への怒りの現れであり、キリシタン迫害に対する反抗でもあったこの乱では、約 20,000 人もの一揆軍がこの地を制圧し、島原半島の南岸にあった原城に籠城しました。しかし、剣豪の宮本武蔵を含む 120,000 人の幕府討伐軍が仕掛けた長期の包囲攻撃により、一揆軍は 1638 年 4 月 15 日に敗北します。最終的には、16 歳の指導者を含む推定 20,000 人の反乱者やその支持者が処刑されました。この反乱の結果、キリスト教の弾圧はさらに強化され、2 世紀以上もの間続くこととなる一層厳格な国家政策、鎖国へと繋がりました。

雲仙ビジターセンター

雲仙温泉町にある雲仙ビジターセンターでは、この地域に関する情報や様々な観光地について案内しています。火山活動の裏側にある科学やこの地域の動植物、雲仙の歴史について知りたい方や、温泉やハイキングコース、キャンプ場についての情報が必要な方、また「地獄」巡りをするだけの方も、是非お立ち寄りください。イベントやビデオ展示、島原半島のジオラマ、フォトギャラリー、無料でご利用いただける Wi-Fi やコンセント、休憩場がございます。また、パンフレットやチラシも多言語で無料にてご用意しております。向かいにある別館では、昔の観光チラシや、19 世紀後半に遡る外国人コミュニティの写真など、興味深い展示をご覧になれます。